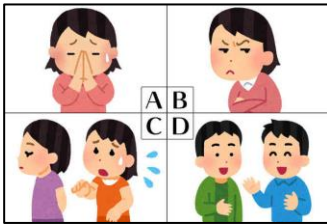


あかるく かしこく たくましく

令和6年7月10日 No. 15 文責：校長 佐野紳二

「性格」を分析する

人の性格は、生まれながらにして持っている遺伝や気質を基盤として、後天的に受け入れる環境やさまざまな経験などの影響を受けて段階的に形成されていきます。そして、その性格はその人らしい行動として表れてきます。そこで、その人の性格や性格から現れる行動が、学習活動や企業など、さまざまな場面においてふさわしいかどうかを見極めるための判断基準として、多くの性格テストが作られるようになりました。



試しに、Amazon で性格テストの本がどのくらい取り扱われているかを調べるために、「性格テスト 本」で検索をかけてみたところ、134件がヒットしました。中身を見たわけではないので何とも言えませんが、本格的な心理学の知見に基づくものから、どのような根拠で書かれたものなのかよくわからないものまで、まさに「より取り見取り（玉石混交?）」という状況です。それだけ、多くの人が性格判断に興味があるのでしょう。また、ネット上にも驚くほどたくさんの心理テストがあることも分かりました。

巷にあふれるこれらの性格テストについてはひとまず置いておき、今日は教育機関や企業、臨床の場で使われている性格テストにはどのようなものがあるかを簡単に紹介したいと思います。

①質問紙法

アンケートと似ているもの（ただし、似て非なるものでもあり、前号でも書いたように、質問紙は統計学的手法でまとめられた質問を問うものです）で、質問事項に対して「はい」「いいえ」や「どちらでもない」といった答えを選択し、その結果から性格を探る方法です。主な質問紙法は次の通りです。

Y・G（矢田部・ギルフォード）性格検査

120項目の質問に「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3択で答えさせることによって性格を読み取る検査。

MMP I（ミネソタ多面的人格特性目録検査）

550項目の質問に「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3択で答えさせることによって性格を読み取る検査。

エゴグラム

50項目の質問に「はい」「いいえ」「どちらでもない」の3択で答えさせることによって性格を読み取る検査。心を「強さ」「思いやり」「冷静さ」「自己中心性」「順応性」の領域に分ける。

Y・G性格検査やMMP Iは問題数も多く、分析も難しいところがあるので、個人で気軽に、というわけにはいきませんが、エゴグラムは現在、ネット上のいくつかのサイトで実施することが可能です。参考になることもあるかと思しますので、興味がある方は一度やってみてください。書籍もたくさんのもが出ています。

コミュニケーション能力診断 <https://commutest.com/> というサイトでは、エゴグラムのほか、前号で紹介したビッグファイブ理論による性格診断等、6つの心理検査が無料で受けられます。解説も充実しているので、興味がある方は「心理テスト性格無料診断」で検索してみてください。

②作業検査法

ある特定の検査場面を設定し、それによって作業した結果や経過から性格の特徴を判断するものです。有名なのは**内田クレペリン精神検査**で、隣り合った一桁の数字を1分ごとに改行して、たし算させ、各行末の点を線で結んでできる作業曲線から性格を読み取ります。私も教員採用試験の際に受けた記憶があります。

③投影法

その人にある刺激を与え、その反応から深層心理を探り、性格を判断するものです。有名な投影法には以下のようなものがあります。

P-Fスタディ（絵画欲求不満検査）

日常で起こり得る欲求不満の生じる状況が描かれた絵を見せ、どのように返答するかを調べて深層心理を探るテスト。

ロールシャッハ・テスト

左右対称のインクのシミから自由に連想させ、深層心理を読み取るテスト。スイスの精神科医ロールシャッハが考案した。

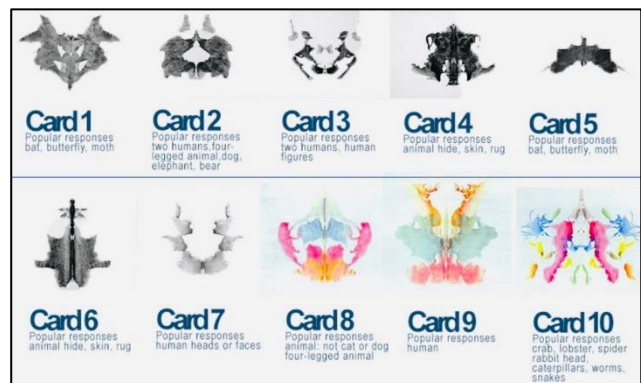
バウムテスト

樹木の絵を描かせて、構図や木の様子（実や葉の有無、枝や根の形など）から深層心理を読み取る。

SCT（文書完成法テスト）

「私はよく人から…」のような60項目の穴埋め文章を完成させて深層心理や心の歪みを読み取る。

P-Fスタディ（左）とロールシャッハ・テストの図柄（右）



これらの投影法については、結果の解釈に専門的な知識を有するため、お手軽に受けてみるというのはなかなか難しいかと思えます。「こういった検査方法もあるんだ」という知識を持っていればとりあえずはいいのかな、と思っています。（投影法が必要とされるのは、多くは臨床の場のような気がします。）

今回、3回にわたって「性格」を切り口に心理学の知見について紹介させていただきましたが、いかがだったでしょうか？「性格のタイプ」を知ることのいちばんの目的は「自分自身を知る」ことなのかな、と私自身は思っています。自分自身の考え方や物事の捉え方の傾向を自覚することによって、誤った判断や行動を減らすことができるかも知れない、なんて考えています。今回紹介したエゴグラムは何度かやってみたことがあります。何度やってもAとC Pの値が高い逆N型というタイプになります。真面目で頑固、頭が固く思いやりに欠けるのが逆N型の特徴なのだそうですが…。そんな自分を自覚し、日々「人にやさしく、笑顔で接する」ことを心がけている毎日です。

今回の話題をきっかけに、みなさんも自分自身についてちょっと今までと違った角度で見直してみるのもいいかも知れませんよ？

